

東邦大学学術リポジトリ

Toho University Academic Repository

タイトル	更年期障害の重症化に関する要因について 身体感覚の増幅に着目して
別タイトル	こうねんきしょうがいのじゅうしょうかにかんけいするよういんについて しんたいかんかくのぞうふくにちゃくもくして
作成者(著者)	小野, 陽子
公開者	東邦大学
発行日	2022.03.16
掲載情報	東邦大学大学院医学研究科 博士論文 内容の要旨及び審査結果の要旨.
資料種別	学位論文
内容記述	主査: 片桐由起子 / タイトル: 更年期障害の重症化に関する要因について 身体感覚の増幅に着目して / 著者: 小野陽子, 竹内武昭, 対馬ルリ子, 中村祐三, 端詰勝敬 / 掲載誌: 女性心身医学 / 巻号・発行年等: 25(3): 175-182, 2021 /
著者版フラグ	none
報告番号	32661甲第1023号
学位記番号	甲第702号
学位授与年月日	2022.03.16
学位授与機関	東邦大学
DOI	10.18977/jspog.25.3 175
その他資源識別子	https://www.jstage.jst.go.jp/article/jspog/25/3/25_175/article/char/ja/
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD28665864

博士學位論文

論文内容の要旨

および

論文審査の結果の要旨

東邦大学

小野陽子より学位申請のため提出した論文の要旨

学位番号甲第702号

学位申請者：おのの陽子

学位論文：更年期障害の重症化に関する要因について
—身体感覚の増幅に着目して—

著者：小野陽子、竹内武昭、対馬ルリ子、中村祐三、端詰勝敬

公表誌：女性心身医学 25(3)：175-182, 2021

論文内容の要旨：

更年期障害は女性の生涯において大きな人的・経済的負担を与えるとされ、身体的、心理的、社会的な要因が複合的に影響すると指摘されている。更年期障害発症の背景には心理社会的な要因が関与するため、婦人科における代表的な心身症とされている。更年期障害が重症化すると、日常生活に支障をきたし、臨床的なケアが必要となる。本研究では、更年期障害が重症化する要因として、somatosensory amplification（身体感覚増幅）が影響するという仮説を立て、婦人科クリニックにおいて横断的な検証を行うことを目的とした。

対象は2017年1月から2017年12月に対馬ルリ子女性ライフクリニック銀座を初めて受診した45～55歳の110名の女性のうち、書面で同意を得られた98名とした。初診時に対象者には血液検査を実施し、質問紙への回答を求めた。5つの質問紙は1)簡易更年期指数(SMI)、2)身体感覚増幅尺度(SSAS)、3)ベック抑うつ評価尺度(BDI-II)、4)状態-特性不安検査(STAI)、5)自我態度スケール(EAS)とした。SMI50点をカットオフ値として、51点以上を更年期障害重症群、50点以下を更年期障害軽症群として両群間の社会的背景、身体の状態及び、質問紙の項目を比較した。単変量解析のt検定を行い、そこで有意となった項目について多変量回帰分析を行った。

74名から回答を得られ、平均年齢は48.9±2.9歳であり、重症群は25名(33.7%)、軽症群は49名(66.2%)であった。重症群はうつ病の評価尺度、不安症の評価尺度、身体感覚増幅の尺度の得点が有意に高かった($p<0.01$)。また、自我態度スケールにおいて、自然性、直感性は有意に低かった($p<0.05$)。多重ロジスティック回帰分析を行ったところ、軽症群と比較し重症群において抑うつ尺度と身体感覚増幅は、更年期障害の重症化と関係していた($p<0.01$)。

更年期障害重症群は軽症群と比較して、抑うつ尺度の得点、不安評価尺度の状態不安得点ならびに特性不安得点が有意に高値を示しており、更年期にはうつ病や不安症などの精神疾患の発症が多いという先行研究と同様の結果が得られた。また、自我態

度スケールでは、重症群の自然性の得点は有意に低く、自分の感情や衝動を表現することが苦手な他者配慮が大きいほど更年期症状が重症化しやすい傾向が考えられた。また、自我態度スケールの直感性の得点も有意に低いことから、好奇心や空想力に乏しく、他者からの影響を受けやすい性格傾向は更年期症状を重症化させる可能性があることが示唆された。これらの性格傾向は心的葛藤を言語化することが難しく、情動を感じにくい結果、感情を表出しないという心身症患者に特有のものと合致していた。更年期障害は女性における代表的な心身症の一つであり、自己表現が苦手な他者配慮を行いつづける性格傾向は、心理社会的環境の変化が著しい更年期の女性に更年期症状の重症化をもたらすこととなった可能性が考えられた。多重ロジスティック回帰分析では、更年期障害の重症化に関連する要因として、抑うつと身体感覚の増幅が抽出され、更年期障害の重症化に身体感覚の増幅が影響していると考えられた。身体感覚の増幅は心身症発症に関与する身体症状の数や心理社会的ストレス度、気分状態と相関しているとされており、更年期障害の重症化している患者の背景にこれらの重要な変数が関与しているかどうかを身体感覚の増幅から予想することができる可能性がある。また、多種多様な精神的、身体的症状を呈する更年期障害の症状を主観的な判断を交えずに定量化することが可能となる。今後、初回問診時に身体感覚の増幅の項目を導入することで、患者のみならず治療者が患者の状態を理解しやすくなることにつながり、薬物療法や心理療法といった治療法の選択や、治療目標を設定する判断材料になると考えられた。

1. 学位審査の要旨および担当者

学位番号甲第 702 号	氏 名	小 野 陽 子
学位審査担当者	主 査	片 桐 由 起 子
	副 査	中 田 雅 彦
	副 査	桂 川 修 一
	副 査	根 本 隆 洋
	副 査	中 島 耕 一

学位論文の審査結果の要旨 :

閉経の前後 5 年を更年期といい、この期間に現れる器質的变化に起因しない多種多様な症状を更年期症状と呼び、日常生活に支障をきたす病態が更年期障害と定義される。更年期障害が重症化する要因として、抑うつ・不安・性格特性、身体感覚等が報告されているが、本研究は身体感覚評価の代表的な方法である身体感覚増幅が更年期障害の重症化に影響するという仮説の下、横断的検証を目的として行われた。単施設を受診した 45~55 歳の全初診患者 110 名のうち文書で同意の得られた 98 名を対象とし、自筆式評価法 5 種 (簡易更年期指数 : SMI、身体感覚増幅尺度 : SSAS、バック抑うつ評価尺度 BDI-II、状態-特性不安検査 : STAI、自我態度スケール : EAS) を用い、SMI51 点以上の重症群と 50 点以下の軽症群の 2 群間で、両群間の属性と質問項目結果を比較した。多重ロジスティック回帰分析で、更年期障害の重症化に関する要因として、抑うつと身体感覚増幅が抽出され ($p < 0.05$)、抑うつと身体感覚増幅が、更年期障害重症化の要因であると考えられた。

学位審査会では、活発な質疑応答が行われた。更年期障害の定義や診断基準に関する質問に対して出典を明らかにして正確に回答をすることができた。また、更年期障害に含まれる心身症状と除外されるべき心身疾患の別に関する質問では、心身症状としての抑うつや不安と、うつ病を分けた解釈や対応の必要性について述べ、また研究対象と研究デザインに関する質問では、研究の効果と限界、および今後の研究デザインの方向性の視点からの的確な回答が得られた。また、更年期障害の評価方法や評価項目に対する質疑にも、先行研究結果を交え専門性を以て回答することができた。すべての質問に対して根拠を提示しながら十分に回答することができた。

審査論文は、更年期障害の重症化には、抑うつと身体感覚増幅が要因であることを検証しており臨床的価値がある。また、今後の研究活動にもつながる伸展性が認められた。申請者は、専門領域に十分な知識を有しており、学位授与に値すると評価された。